

# 吉田遺跡における古代の遺構群

## 未だ発見されぬ中世前期（鎌倉時代）の集落跡

吉田遺跡内に所在する山口大学吉田キャンパスでは、小規模なものを含めると 350 次を超える調査を行っています。しかしながら、未だ明確な鎌倉時代の集落跡を発見するに至っていません。その一方でキャンパス内各地、特に丘陵地周辺において遺物包含層より鎌倉時代のものと目される土器や多数の輸入陶磁器が出土していることから、丘陵地周辺に当該期の集落が存在した可能性が高いと考えられます。また、輸入陶磁器の多さから、その集落には「地域の有力者」が居住していたものと推測されます。

## 古代（奈良時代・平安時代）の吉田遺跡

吉田キャンパスにおける古代の遺構分布は、キャンパス東～南部の丘陵地に限定されています（下写真参照）。この状況は、続く鎌倉時代の遺物分布範囲、室町時代の集落分布範囲とも共通します。ここでは、古代の遺構が発見された代表的な発掘調査例をご紹介しましょう。

### 総合研究棟調査区（平成 12 年度実施）

平安時代の遺物（円面硯・製塩土器など）を包含する河川跡を確認。

### 農学部解剖実習棟調査区（平成 14 年度実施）

調査区南西部に総合研究棟河川跡に続く埋没谷を検出。谷傾斜部に 8 世紀後半から 9 世紀後半のものと推定される並列する 2 棟の総柱掘立柱建物跡をはじめ 6 棟の掘立柱建物跡や柵列などを確認。

### 動物医療センター第 I 期改修調査区（平成 18 年度実施）

調査区西部に埋没谷を検出。3 本の柱根が遺存する大型掘立柱建物跡をはじめ 3 棟の掘立柱建物跡を確認。

### 動物医療センター第 III 期改修調査区（平成 20・21 年度実施）

農学部解剖実習棟と動物医療センターの間に幅約 15m の埋没谷を確認。



古代の遺構が分布する範囲